

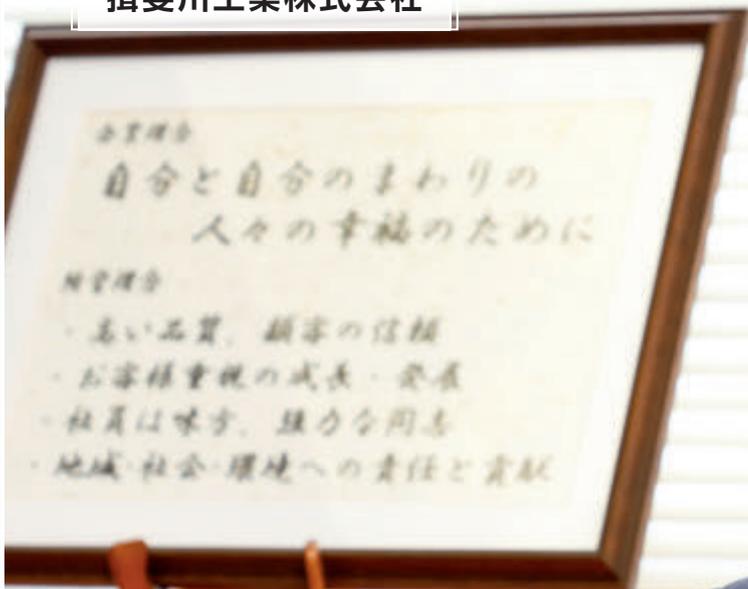
Top

トップと語る

73

interview

揖斐川工業株式会社



揖斐川工業株式会社 代表取締役社長

井上 豊秋氏

◎聞き手

十六総合研究所 取締役社長 佐竹 達比古

INOUE Toyoaki

IBIKO CORPORATION

私達は未来志向とマーケットインの発想をもっともっと大切にし、強化していきます。将来にわたって、たとえ地味であってもお客さまや社会に必要とされる存在となるべく、これからも設備投資に創意工夫を加えることで、社中一同が高品質な製品やサービスを作り出す「小さくともキラリと光る」存在を目指します。

揖斐川工業株式会社は、揖斐川における河川砂利採取販売を目的に1945年に設立され、来年80周年を迎えます。砂利資源は有限であることから、必然的に事業の多角化を進めた結果、揖斐グループの事業は砂利・砂（骨材）、コンクリート二次製品、建設関連商品、運輸業、自動車や建機の整備、レストランやホテル等のサービス業、農業資材を基盤としたアグリバイオ事業、ITシステム事業など多岐にわたっています。

「自分と自分のまわりの人々の幸福のために」という企業理念のもと、常にお客さまのご満足が得られる商品、サービスの提供を通じて時代の変化に対応しています。

今回は揖斐川工業株式会社 本社をお訪ねし、代表取締役社長 井上 豊秋氏からお話を伺いました。

戦後の経済成長とともに事業を多角化

— これまでの沿革をお話してください。

●井上社長（以下、敬称略） 私の父は岐阜県各務原航空隊の主計将校で終戦を迎え、学校の先輩から戦時中に休眠状態だった当社の経営を任されました。

当初は、揖斐川をはじめ、木曾川、長良川の水上市採取選別船から河川に堆積した砂利・砂を採取し、名古屋方面のお客さまに販売していました。1962年に河川砂利採取が全面禁止になってからは、神戸や関、木曾川など陸上選別工場での砂利・砂の生産に切り替えました。砂利・砂は建設工事に欠かせない基礎資材です

から、戦後経済復興の波に乗り、その生産販売高は大きく拡大しました。

砂利・砂を岐阜から名古屋の市場へ運んだ後はトラックの積み荷が空になります。それを有効活用するために、名古

屋港から石炭等のバラ荷を預かり、岐阜・大垣周辺の化学会社やガス会社へ帰り荷として運ぶようになりました。運輸会社の始まりです。その後の原燃料転換に伴い、輸送品目もバラ荷からガス、化学品に転換して運輸事業を継続しました。現在は、特殊車両による化学薬品やLPG・LNGの輸送に強みを持つ運輸会社になっています。

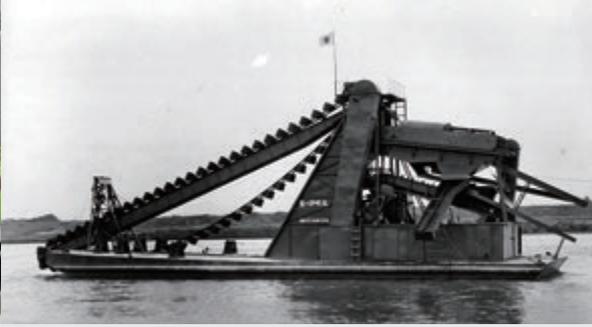
— 砂利・砂の採取事業や運輸事業以外にも様々な事業を手掛けられています。多角化を進められた背景や経緯を教えてください。

●井上 父が1960年にアメリカへ行き、初めて見る高速道路上の自動車の数とその流れから、日本にも自動車時代の到来を確信しました。名神高速道路もない時代ですが、日本でも自動車による郊外沿道型需要があると考え、1階に食堂や売店、2階に洋風宴会場を備えたレストハウス大垣を1962年に開業しました。ほかに競合施設がなかったこともあり、休日の売上げは想定以上でした。

結婚式の形式が変わる時期でもありました。自宅や料亭で畳に座って行っていた結婚式が、洋風結婚式場で椅子に座って行う式になると見込みました。同じ頃、ボウリングが大人気となり、ボウリング場もやろうということで、1階に結婚式場、2階に大集会場、3階に12レーンの会員制ボウリング場を備えた、レストハウス大



十六総合研究所
取締役社長 佐竹 達比古



水上採取選別船



陸上選別工場



揖斐川工業株式会社
代表取締役社長 井上 豊秋氏

垣別館を1964年に建設しました。ボウリング場には、現金を握りしめたお客さまが、早くプレーさせてくれと詰めかけ大盛況でした。

引き続きボウリング場の経営を拡大しました。大垣での12レーンを皮切りに3か所に建設、最後に三好町（現・みよし市）の自社山砂利工場跡地に、ワンフロア104レーンに加えて夏はプール、冬はアイススケートを楽しめるレジャー施設・三好リッチランドを1972年に開業しました。5センター合計234レーンを抱えるボウリング事業でした。

—— 拡大路線が続いたのですね。

●井上 そうですね。しかし、ブームは長続きしませんでした。三好リッチランド開業直後の1973年に、第1次オイルショックが起こりまし

た。それまでのボウリング投資により借入金が積み上がっていました。これが重くのしかかり、会社存続が危ぶまれる時代もありました。

幸い、骨材事業が順調であったことや、輸送、自動車整備など多角化していたこと、また、お客さまにも恵まれたおかげで何とか続けられたと思います。

拡大路線を継続し、新事業に活路を見出す

—— 現在の事業内容を教えてください。

●井上 砂利・砂だけに頼ってはいけないということで、コンクリート製品の強化拡充をはかりました。当社は後発メーカーであり、当社のお客さまでもあるコンクリート会社さんが得意とされるような大型製品への参入は困難でしたから、その隙間を縫って、ニッチなコンクリート製品を手掛けました。現在は、サステナブル社会実現への取組として、低炭素型コンクリートブロック (CN55PCa) の製造販売に力を入れています。愛知県の「矢作川・豊川カーボンニュートラルプロジェクト」に採用されました。コンクリートブロックなど二次製品での低炭素化の取組は全国でもあまり例がありません。

—— 農業分野も手掛けていらっしゃいますね。

●井上 運輸会社のお客さまである化学会社さんのご指導で、育苗用の培養土や花苗など



コンクリートブロック生産の様子



LPG輸送

農業分野にも進出しました。現在は、農業資材だけでなく、施設園芸用生産設備の開発・施工も行っており、植物工場などへ大型自動化生産設備を納入しています。また、2011年には、岐阜県安八郡神戸町に野菜苗生産の専用施設を造りました。

地域貢献活動や文化・スポーツ活動で 地元に潤いと活気をあたえる

—— グループでは社内行事や文化・スポーツ活動も盛んですね。

●井上 仕事も遊びも何事も一生懸命、その気になってやるのが当社の企業文化です。

合唱団「揖斐工モーニングエコー」は、働く仲間の感性を高めようという目的で、1986年にスタートしました。挨拶を含め、やはり声を出すことは良いことで、大事なことだと思い、今も続けています。

スポーツ活動は、大垣フォーラムホテルという実業団ソフトボールチームがあります。1978年に同好の士が集まって始まりました。1996年に岐阜県A級リーグに昇格、2004年には全日本実業団ソフトボール選手権に初出場し、ベスト16入りしました。

選手を確保するために、各地のソフトボール強豪校を訪問し、当社への入社勧誘を行っています。男子ソフトボール界での知名度が少しは向上し、入社してもらえるようになりました。ありがたいことです。

—— 熱心な社会貢献、地域貢献から、2021年には大垣市功労章を受章されました。どのような活動をされているのでしょうか。

●井上 地域貢献として、当社の本社前「はなみずき通り」の整備を続けています。グループ会社である大垣フォーラムホテルの開業を記念して、大垣市にハナミズキの苗木250本を寄贈し



対談風景／揖斐川工業株式会社 代表取締役社長 井上 豊秋氏(右)、
十六総合研究所 取締役社長 佐竹 達比古(左)



はなみずき通りのイルミネーション
道行く人々が温かな気持ちになれるよう、
毎年11月下旬～1月初旬まで、本社社屋を
イルミネーションで飾っています。



合唱団「揖斐工モーニングエコー」の活動



実業団ソフトボール全国大会の様子



十万石まつり企業みこし

たことが始まりです。その後も植樹や街路灯の寄附を行ったほか、定期的に清掃や夏の散水を続けており、今では沿道の両側2kmにわたって美しい景観を保っていますが、最近の夏の暑さで木々も疲弊し、枯死が増加し残念です。

また、毎年秋に行われる大垣市の十万石まつりには、重量級企業みこしを出していますが、お祭りや企業みこしに対する考え方は、働き方改革の推進もあり、社中でもだいぶ変わってきたと感じています。以前は、企業みこしに参加して仲間とともにお酒を飲んでご飯も食べられるということで、喜んで参加した人が多かったのですが、現在のみこしは、禁酒、禁煙、さらにお祭りが3連休のど真ん中に開催されることもあり、今の時代は不評との声も聞かれるようです。働く人にしたら、せっかくの3連休ですから無理ありません。参加は個人の自由ですが、業務以外の会社行事には参加しませんという人ばかりになると、お祭りも廃れていくのではないかと少し心配しています。今後は個人と会社がお互いどのように関わっていくかというのは、大きな課題ですね。

長年にわたってカンボジアへの支援を継続

—— 1997年に設立された井上国際交流基金では、カンボジアへの支援を長年続けられ、その功績から2023年に同国の友好勲章(サハトレイ勲章)を受章されました。支援を始めたきっかけや現在の



カンボジア王国友好勲章(サハトレイ勲章)大十字章授章式の様子

状況をお聞かせください。

●井上 私たちの講演会で、カンボジアの小児病院でボランティア活動をしている大学教授の方の話を聞いたのが支援のきっかけです。

2005年、カンボジア北西部の都市・シェムリアップのアンコール小児病院を初めて訪問しました。話を聞くと、最大の課題は病院で胃腸の病気を治療し回復しても、飲み水が不衛生な実家に戻るとすぐにまた病気になってしまうということでした。そこで、きれいな水を使えるように井戸の整備資金を求められました。地下何メートルもの水源を掘り当てるには、日数も費用もかかりますが、皆さまからのご支援やフォーラムホテル「幸福の泉」井戸基金のおかげで、多くの井戸を建設できました。

—— 小学校の校舎も寄附されたそうですね。

●井上 2009年に遺跡発掘活動中の奈良文化財研究所のご案内でシェムリアップから1時間半ぐらいの農村にある窯跡近くの小学校を訪



現地小学校支援前の様子(カンボジア・クナートップチェイ村、2009年)

問しました。その小さな校舎は、隙間だらけのヤシの葉で申し訳程度に懸けられた屋根の下に、机と椅子が地面に並んでいるだけというボロボロの状態でした。とても将来を担う子供たちが満足に授業を受けられる場所ではありませんでしたので、新しい学校を造ることに決めました。校舎のほかにも、図書館、事務所、台所、トイレ、グラウンド、学校の囲いなどを造りました。

さらに、中学校も造りました。子供たちは中学生の年齢になると街へ出て、手近な熟練度が低く勉強が必要でない仕事に就いてしまうので、勉強の機会を与えて地域に定着してほしいという現地の人の願いを聞いたためです。小学校、中学校と来たら次は高校で、この秋から建設に着手する予定です。要望にはきりがありません。

学校周辺のかつては何もなかった農村に次々と家が建ち、人が定住するのを目の当たりにして、教育を通じての経済発展とはこういうものかなと感じています。

カンボジアへの支援は、多くの方々の支えがあって実現しています。発電機寄附やグラウンド整備に賛同していただいた会社です。友好勲章は、この方たちも一緒に受章できました。

人材の定着のため、待遇の見直しも必要

—— 採用や人材育成、人材の定着についてお聞かせください。

●井上 今の時代、採用状況は本当に厳しいです。当社は規模が小さくとも多くの事業分野があるので、やりたいことが出来る分野をみつけてぜひ応募してもらいたいです。

人材の採用とその定着をはかるために、研修制度を充実させています。

職種によっては待遇の改善も課題です。砂利工場は屋根も壁もなく、雨風や夏の暑さ、冬の寒さもしのげません。こういったところで働く人に対して職場環境と待遇を良くしないと、人は集まらないと思っています。

マーケットインの発想を強化して、高品質製品を作り出す

—— 今後の経営の中で実現したいことや、展望、社長様の夢などをお聞かせください。

●井上 当社は内需地域限定型で事業をしていますから、国内市場縮小の影響で、拡大成長は容易ではありません。この先どう伸ばしていったらよいかと考えた時、地理的拡大は重要です。日本の人口が減少するなかで、東海道新幹線沿いの地域は他地域に比べて減少幅が比較的緩やかなので、関東圏から東海圏、関西圏



公益財団法人 井上国際交流基金の活動(カンボジアに中学校を建設・寄贈、2018年)

に拠点を増やすことで、なんとかやっていると
のではないかと考えています。

また、会社としてマーケットインの発想を強
化したいです。当社は砂利・砂にせよ、コンク
リートにせよ、農業にせよ、これまではサプライ
サイドからの発想で運営・経営してきました。生
産だけでは時代の変化に対応しきれません。で
は、どんなものが売れるか、売るにはどうすべ
きかを考えたうえで、新事業に取り組みます。

過去に失敗したいくつかの事業は、ここに失
敗理由があります。



本社にて社歌の歌詞とともに

マーケットインの発想とバックキャスト思考
を重視するモデル新規事業として、一般品とは
異なる差別化野菜の通年生産販売を検討して
います。今後は栽培設備と栽培技術をさらに改
善して、最適な栽培環境を創り出し事業を軌道
に乗せたいですね。

マーケットインの発想は、当社の“自分と自分
のまわりの人々の幸福のために”という企業理念
に通ずるところがあるかもしれません。私達は
未来志向とマーケットインの発想をもっともっ
と大切に、強化していきます。買う側の思い
を最優先するマーケットインの発想をベースに
し、将来にわたって、たとえ地味であってもお客
さまや社会に必要とされる存在となるべく、こ
れからも設備投資に創意工夫を加えることで、
社中一同が高品質な製品やサービスを作り出す
「小さくともキラリと光る」存在を目指します。

—— 本日は貴重なお話を聞かせていただきありが
とうございました。

(対談日：2024年9月3日)

会社概要

- ◆本 社／岐阜県大垣市万石2丁目31番地
- ◆設 立／1945年3月15日
- ◆事業内容／
 - コンクリート用骨材(砂利・砂)の生産販売
 - コンクリート製品の製造販売
 - コンピュータ・通信機及び事務用機器及びコンピュータソフトウェアの開発販売
 - 農業用資材及び種苗の生産販売並びに農業用施設・設備の施工及び販売
 - 土木建築工事の請負
 - 建設機械器具及び建築資材の販売
 - 農場の経営
- ◆グループ会社／株式会社フォーラムホテル、アイケイサービス株式会社、揖斐川工業運輸株式会社、株式会社大垣オートサービスセンター、株式会社小野田愛知鉱業所
- ◆関連会社／有限会社昭和運送、有限会社エスケージャー、IKトランス有限会社、株式会社トーヨーカセイ